

第 6 回 医療における個別就労支援研修

医療法人水明会佐潟荘 デイ・ケアセンターはばたき

平成 30 年 8 月 29 日(水)~31 日(金)の 3 日間、「第 6 回医療における個別就労支援研修」が国立精神・神経医療研究センターにて行われました。全国より 18 名の方が参加されました。関東圏・関西圏の方が多数を占めていました。

就労支援プログラムに取り組んだ関東のデイ・ケアは、ES(就労支援担当者)と CM(生活支援員)を設け、就労意欲のある患者様を、直接、ハローワークや企業・会社へ繋げ、就職の定着を図っています。重度の精神障害の方も就職しています。

従来型の考え方だと、就労意欲のある患者様がいた場合、地域活動支援センターや就労継続支援 A 型・B 型、就労移行支援等に繋げて、数年位経過してから就職活動をする、という流れがありました。先のデイ・ケアの取り組みとして、就労意欲のある患者様を直にハローワーク、会社・企業へ繋げて就職に結び付けている、ということです。

ES は、いつでも、外に出られるようになっているということです。ES の役割として、会社・企業へ訪問し、就職先を開拓したり、患者様と同行して、面接に付き添ったりすることです。CM の役割としては、健康管理や生活状況への支援を行う、というものです。そういった取り組みの中で、毎年、就職者を輩出するという実績を残している、ということです。

「就労は最大のリハビリ」という理念のもと、就労支援に取り組むことは、今後のデイ・ケアのあり方として考えられます。就労支援に取り組むことは、デイ・ケアの現在における動向としてあります。それと同時に、就労支援に参加されない患者様もデイ・ケアに通って頂くために、就労支援と従来型プログラムの両立を考える必要があります。

今後、就労支援デイ・ケア、生活支援デイ・ケア、重度認知症デイ・ケアを設け、就労支援の後押しと就労へ結び付かない患者様への支援、増加傾向にある認知症の方への支援を両立させた関東のデイ・ケアを参考にすることは、今後のデイ・ケアを考える上で非常に重要であると思われます。